

2014 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	社会システム学科	科 目
-----------	----------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

この科目の既往のデータから見ても、Q4「授業時間以外の学習に1週あたりどれくらいの時間を費やしましたか」では、全学評点平均値より低い傾向にあり、今学期も相変わらず、全学平均 0.67 (h/w) に対して 0.45 (h/w) であった。しかし、2013 年秋学期と比べて、わずかだが 0.05 (h/w) の改善がみられた。

2013 年秋学期は、Q2「授業に意欲的に取り組みましたか」において全学平均 4.09 を 0.01 の僅差で下回っているのをのぞいて、その他の7項目はいずれも全学平均を上回っていたが、今学期は Q4・9を除いて、いずれも 2013 年秋学期より僅差ながら下回っている。

全学平均と比べて Q7・8・9が全学平均をやや上回って、Q6が同点である以外、他の項目ではいずれも全学平均をわずかながら下回っている。といっても全学平均からのプラスとマイナスはどちらも僅差の範囲内である。

社会システム学科科目は、他学科科目と比べてダントツに多い、218 クラス抱えており、全学の科目区分において、外国語科目の 231 クラスに次ぐ大科目である（音楽学科科目はクラス数こそ 441 と多いが、登録者数は 3130 人しかいない。登録者数では、外国語科目の 6612 人に対して、社会システム学科科目は 8274 人でありもっとも多い）。クラス数が多いだけでなく、社会システム学科科目は、カバーする専門分野も多岐にわたり幅が広い。分母の大きいこれくらいの規模の大科目で、ほとんどの項目において全学平均を上回る数字が見られたのは、十分評価されるべきところだと思われる。

なお、Q10のDWCLA10に関しては、分析力が 39.0、思考力が 60.7 となっており、いずれも全学平均を上回っているのが、本学科の特徴のひとつとして挙げられるが、他の項目でいずれもやや全学平均に及ばないのは、2013 年秋学期と変わらない。

以上、社会システム学科科目群の授業は全体として見ると、学生から一定水準の評価が得られる授業を提供しているといえる。ただし、講義系科目の授業、とりわけ大人数の授業にはまだ改善の余地がある（大人数講義科目になると、Q4の値が顕著に下がるなど）。今後は個々の教員の研鑽と努力によってさらなる改善がはかられていくべきであるが、学科としては教員に FD 意識の向上を促し、FD 研鑽のための環境を整えるのによりいっそうの工夫が求められている。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。